



開國起原

少年
2110
29



リ5 特
2110
29

開國起原 二十八



開國起原卷二十八

北地定界之談判下

成八月五日魯國旅客於竹内下野寺松平石見寺等
要細^{魯西}亞外務セ子ラールイクナナフ也

對話書四

一應挨拶平而

一葡萄丹シヤルゼダフヘールル私に申

少候之候に前候方ハ以津頃同國に
越可相成積之候哉同人ニも此面晤之上
此根子相伺度者之付何日頃召連居出候
而可然哉

一何日頃亦ても差支無之候

一同國に之固より此越可相成候と存候時
共如何此症に裁若し此越無之にハ、別段
此面晤之も及び不申に

一葡萄牙にも勿論相越に積之有之候に和蘭之而
之談判筋未之決答無之之付同國に再度支より

海舟書屋

佛國に相越同國に相廻候積之有之候處者談
判筋に候も和蘭政府より當府に挨拶可申哉
哉之趣此程兼至に候も有之に間左候時之和
蘭に再渡不致積之候に右之未之治定致し候
儀之に無之に

一右談判筋に候之付而之私より和蘭政府
に此都合宜敷に返答可致者申遣に候
も有之候に當府に把里斯致何之に可申
立候哉難計に時共以津之にも此都合能
此挨拶可致に申遣至に候之有之に之而

も自國之懇親之由案可被下候

一 右之指別厚意之取扱之而拙者共之も別而系
 存候孰而之過日同國之ニストル相越談判筋
 之儀之當府に挨拶可致哉之旨申付共如
 何之譯之而右指之儀中國より申越候儀之候
 哉^也一向不相分^也要右之全^く前被^申用^也趣
 も有^之故^之儀と存候

一 當府に出立^之節^に海陸^の以^て別^に申^上之^候哉右
 之旨若も有^之由^に同前^に以^て相^同並^度に

一 當府より直^に葡萄牙^に居^る越^に相^成候^に、

海舟書屋

別段致方無^之旨^に教^之儀^に之^に以^て將^共船^に而^渡航
 以^て之^に序^に把^里斯^に相^越候^に儀^に之^に以^て陸^路小^て
 罷^越度^に

一 海陸^の儀^を聽^と相^同並^度に陸^路之^に以^て
 之旨漏^生國^境より陸^續之^に而^は居^る越^に由^に
 とも海^路之^に而^は追^く川^筋等^凍之^に以^て須^合
 小^相成^候儀^に之^に付^て軍^艦等^豫之^に旨^に當^不致^に
 而^も不^相成^候

一 陸^路之^に以^て、幸^漏生^近由^に送^り可^申海^路之^に
 以^て、葡^萄牙^舟由^て由^に送^り可^申積^置之^に旨^に

一 海路之而葡萄牙まで何日程相掛可申哉

一 海路平常之天氣合ふは十日七右掛り申

右候本後進方も有るは三月の色候に港に

立寄らば有るは三月は候も出来申

一 陸路之而字漏生國境迄は一日、晝夜之而

二日も相掛り可申候右候相成候は一日、

前以同國の内送迎に苦等此打合候

く而之候不都合候候候

一 字漏生より把里期まで何日相掛候哉

一 是亦晝夜之而二日も相懸り可申候

一 以津之和蘭より談判筋挨拶中越候次第二家

候儀之有之候

一 同國の内再渡相成候は一日、如何被成

候候候哉

一 陸路之而巖越度候

一 過日中よりカラフト境界に候は一日繪圖

面色分ける候は談有之候共佛國より

出板し繪圖に之候相成居色分ける候

之兼而申上は通決而當り相成不申候

此時繪圖面差出候是繪圖面にてカ

ラフト全島彼方色分ケニ相成居申候

一是と迫頂ノ繪圖ニ而省之此方亦も省之候間一
覽可被致候

此時此方も繪圖と見申候

一其許次度之罷立候者何人ニ候哉

一右もクシエニコタン亦久々立留以多し候

口夕ノスケセヤもの亦省之過日中私々

カラフトニ候ニ付品々申上候趣も省之

候ニ付右も實地ニ摸取と相違無之段

證人といたり度召連候儀ニ省之然而も

海舟書屋

同所ノ事情尚一ト通可申上候

一カラフトと申候と一俣カラミ島と申候
ニ省之候

一同所とも久々罷立候事アニワケリ先こそ
土人而已とる外亦も一切所國人等之志者
去人と冬親しく相交り申候

一以は頂北地ニ被相越候哉

一千八百五十三年より同五十七年まで乃同
立留以多し候其頃冬土人等是外他人を
一切居不申候

一 夫是ハ通順ニ在留山者之候其時分冬大名招
前伊豆守所領中ニ而首之其頃通モ我國人等
壹人モ不居居トテ俄々無之所クハ會所等取
建役人相詰居候答コト

一 私ト是マテ正實之候ノニ由動テ上候候
二 有由テ前候方ニモ同根事實ノ事ニ而
以答首之ハ根以多ク度就而ト邇來彼地
ハ役人等以差遣丈ノ由世語首之候ト全
ク御國政府ノ由趣意ニ由哉又ト外由ハ
何歟ト云ハ次第モ首之由所至相成ハ俄々

以哉事實ノ處相同度先年中ト更ニ由世
語モ無之邇來ニ至リ俄々在根由テ入由
症候ト何故ニ由哉一向不相分候

一 古ト過日モ委細中談候通往古我政府より役
人差遣取調至尚又兩人ノ重臣差遣ノ為取調
我國屬島ニ相違無之ニ付格首等致一未是候
段ト別殿ト舊記等ニモ首之其後松前伊豆守ハ
相渡同人所領中モ夫々人民格首以多ク未候
儀首之然ル處何分テ廣ニ而同人方ニ而ト萬
事ハ當方等不行居ハ俄々首之候ニ付邇來ニ

至り又候上地為致政府して取扱は候し有之
前書に通り全く往古より我國於て治定致し
取扱末候儀之而舊記等にも委細有之我國所
屬之儀之顯然相違之候候之相分り候事と
存以

一當時世話に多し警衛等大名に申付候趣意を
別候謂は有之候儀之も無之前書に通り政府
以上地為致候上之未分り政府於て世話不致
候而之不相成候に付別大名に命し固ノ等為
致候儀之有之候且先年ムラビヨフ渡来遠藤

海舟書屋

但馬守酒井右京亮引合及ひ候節右境界に談
小涉里同人申付候こと同所半嶋之而境を定
メ候而之我國之而ハ警衛等十分仍届申間敷
右行届不申候而之自然他國より覬覦に多し
候儀も可有之左に而之西に交際上禍を醸し
以振之儀も出来可申之付魯國於て防備に在
當等いし一度杯と云ふ儀も有之候此方
於而右警衛向等出来不致候と申儀も未分り
在之に以て是れ不も夫に在當可致旨等申談候訳
も有之右我國之而之仍届申間敷旨申聞ら

是以甚不快也相心持以位之候之有之
前書之通政府之所轄在候上之固ノ等走之
當以たし以之尚然之候之而決而別之趣意有
之譯之之無之候

一今般もは談判之基き海を以て境界と相
立度と申も畢竟兩國境界は外國人等
居越候而も不都合之付右海之而境相立
自國より之軍艦号差出之備置は候以之
一度故之有之若く又外國より之軍艦等
差越は候之而も實以兩國懸親之差障可

海舟書屋

申候と心配以多一候間右等之趣意之
外相成は哉

一我政府於而も右等之裁念も有之候之付松前
伊豆より土地為致政府之所置之而警備向
走之自當以之候之有之候

一アニワより南之方は口タノスケ并
ツツセと申もの居越居は更右土人申
候之もアニワより北之方居越は而も冬
分も寒氣も難忍且一眼之怪物出候而
人を喰は杯世俗之申傳も有之候之付一

切段越は俄難出来音中唱居は位に付右
北は正に決而アニワ邊より土人等居越
候も乃と無之候

一其頃冬分冬不居越は俄も可有之哉難計は侍
とも春三月より八九月海より居越居はもの
有之は答之候

一古に冬分而已に無之夏分は而も罷越候
も乃無之前書一照く怪物と恐れ候故小
首之盈く且アニワ港邊に而も御國人と
同所最寄地勢等不相心侍地圖杯も所持

海舟書屋

不致位に有之候間在に其節口夕ノスケ
等より地圖取調差遣は俄も有之候

一過日中より星も申談は通アニワ北は正に是海
て往く罷越は正に有之は譯と而進来に而も
土井能登事家来に而ウシヨ口と申交は居越
越年をも致し居は位に有之且ツ同所邊より一
照く怪物有之候杯と中唱は俄も是より少及
ひ候事も無し事實右極くもの有之候謂まも
無之は正に其邊に譯ふより居越はも乃無之と
く俄と一向不相分は

一ウシヨロホて素より右家来等見請候
儀冬無之一俣四拾八度より以北ニ而所
國人見受ハ儀一切無之候

一假令見受ハ儀無之と被申候とも土井能登等
家来冬事実居越住居越年以之居候亦と相
違も無之儀之候

一即今ハ儀ニ而之證據之不相成誓ハ是
自國より松前ハ商人差遣一並ハとも右
を證據ト以テ之談判及ハ譯之相
成間敷候

一此方於ても過日も申談ハ通り即今ハ儀ニ而
證據ト以テ之談判及ハ候譯之無之矣故全
く往古ノ事跡ト以テ舊記等ニ基キ五拾度ト
申談ハ儀之有之然亦四拾八度より以北ハ
是我國人不能越之の極之有之ハ同者亦ハ相
違致ハ候假申談雖ハ儀之有之候

一舊記等ノ證據より生キ物ノ證據を以テ
談判以テ之度然而右口夕ノスケ五ヶ
年程も立留マテ候事所國人も一切見
受不申候

一 我國役人等差並取調、上属鴻之相成候之中
 五ヶ年前後、俄こも無之百年も以前、俄
 こ有之候且ツ五ヶ年、同壹人も見受無之と
 俄こは、濱共松前伊豆等所領中、而も三月
 八日、八月まで冬名家未等常小居越居候

一 右居越候もの有之候、以付是、邊こは哉

一 クシエニコタン、シラヌシ、エニルモコマフ、等
 之、三ヶ所、有之候

一 右も地圖、而は差示相願度候

一 アニワ港、小て、土人地、承持居候も、乃冬

海舟書屋

一切、無之候、付前書口々ノスケ并外士官
 より、差遣、以、俄も、有之候

一 我國、小てもカラフト、地圖、冬常、小流布、以、
 澤山、有之候

此時地圖差示

一 右クシエニコタン、シラヌシ、邊こ、而も、見
 受、以、濱共、外、是、ヶ所、こ、而も、一切、見、受、不、申
 候

一 我、西人、之、而、居、越、候、もの、有、之、候、冬、事、實、之、候、こ
 以、要、右、一、ヶ、所、邊、候、其、國人、不、居、越、候、同、見、請

無之俄と存候

一昨日ニベリア之鎮臺より同島之俄國帝
に申立し書簡到来以て右にムラビヨフ跡役之而
應取喇ヤ上は右にムラビヨフ跡役之而
アルサコフヤ中者二首之候

一右鴻を巡覽以たり候上中越は俄之而右
島内は先年中より冬當時ハ日本人北之
方にも余程人数も多く罷越中候

一日本人は越土人並申觸し全鴻日本所属
と為言は取計候趣

海舟書屋

一日本人と危角土人と魯人並交り候を相
忌之已し魯人より土人を雇ひ候を拒之申
候右取は俄有之に而も懇親に破棄し相
成は間魯人より右取は俄と不直音中談
は要日本役人之箱館役所より差圖よりり
右に通取計は由相答候趣然而も條約不
も右取は境を不分明は未に通と首之候間
右境取極は上も格別即今之處に而日本
人並進く北に冬より魯人ハ進く南に冬
候取之而も性々混雜に候も出来可申也

難計以間右鎮臺より箱館に役人差遣し
 以来北の方にて日本人も不系松致度自
 國より是も南に不系松可致趣談判可致
 旨命し是に俄に而若し日本人北の方にて
 至候松ありし自國に而も南の方にて松
 不致し而も不相成しと無論に事に成座し
 一右故其邊に事と直交所並不致候而も不
 相成し間右に段日本政府に申立懇親に
 取扱有之に松可掛合旨添臺より箱館に
 留しコンシユルに申遣候間右に而も尚

海舟書屋

日本に而も懇親に取扱毎之に之に授
 アニワ港に軍艦差遣し談判不致候而も
 不相成旨申越候

一書簡に趣し右に通に有之一件自國政府
 於て是裁重にも懇親に盡し以積に有之
 候要右書簡到來致し以之付而ハ政府於
 て不快に相心得候に候時共素より以
 國政府於ても境界相立に近右松に俄に
 所並有之候若し毎之全詰合役人の心得
 違にも可有之に付右に境界相立に付て

五之指別丁寧之取扱に而も不成就に
間其段詰合に彼人等は此達一有之に根
源國政府に可申立積之有之候

一右に政府於ても兩國交際重大に候に而指別
大切之取扱候心得之有之に間右根に候に而
之苦之而如何も不審に候候共箱館
表に申遣に趣に付同所之而も事柄相多り可
申併書簡に返にも有之に上も右被り申候趣
政府に可申遣に

一方今急に北の追々日中人急り候に

有之候間國帝にも書簡一覽に候に而も
政府にも可掛合に申居候に而も今般に申
候方にも當府に申越有之に付幸に候談
申上候に候に而も早速に仰立候に候に
候に而も

一右土人を雇ひ候も右炭等掘り候に而も
有之候處右雇に應に候に而も乃に申付候に
も有之候に候に而も

一右被引合に我國役人とも何と申者に候哉

一此書簡に國帝に差出候に而も大要の

記載致し候俄之付人名等ハ其之右ゴシ
ケウイナニ申遣ハ書面ニ巨細取調有
之ハ事ト存候

一右ノ大名ハ固メ等申付有之候間右人数等迄
ノ相増ハナシト事ト存候

一貨幣改鑄ノ俄以海ノ司農ニニストルハ
挨拶毎之右貨幣ノ俄并延期ノ俄境界ノ
俄以海也モ此談判決定いたし以テ書
面ニ為取替申度右書面ニ取調以上
為此打合可申候

一ウシヨロシ申交ニ陣屋有之ホロコタン
海ニモ舊記等ニ基キ是々ノ人民モ羅越ハ俄
ニ付我國ノ所屬ニ相違無之段國人一同心得
居候間同所迄ノ相越可申モ難計ハ間右ニ其
公濟ニ而被居ハ振以ニ度候

一千八百五拾三年ノ條約面ニ是迄有来リ
通里ニ有之ハニ付右五十三年前迄ニ取
建有之建物等ニ指別其後新規ノ處ニ建
物等出来以而各條約違背ニ相成中ハ
一クシユニナイ小者之候貴國陣屋ニ右條約後

と存候右々如何之候哉

一右之條約之年二月教ハ右取結ハ
以前之者之候

一右陣營ハ口タノスケリ
者も有之ハ口タノスケリ
前後之交代ニテ相越中ハ

一同所ニ被建置候陣營ハ
堀織部云々
ハ成ニ付引拂ハ
同人申聞候趣ニハ
今其儘ニ
由

右々別ち被申度候陣營之事ト存ハ

一右之ポーチャー
ツケンも心濟居ハ
一チン
ハ權無之ハ
タノスケ
一チン
同所ハ能相守リ

一右陣屋之其方ニ
拂可申旨等
境界之論ニ
取極ハ權無之ニ付

談判難出來者中間由之有之候

一 ラステニサツケニも右松之儀之覺不申
定而行違之事と存候

一 右之形違と申事之無之に兩境界之儀之懇親
之廉と以實地經驗之と可右極旨昨日も被申
少候隨之亦存候然ル事天度之儀之實地經驗
之換取之而差定可申以済共ホ口コタニを以
境界相立候と申廉丈々今取極至度候左
以済之右懇親之取扱と尚一層辱存候

一元來境界之儀之是追談判不右纏以至今

般悠々此渡來之付招別懇親之取扱之而
實地之役人等差遣可申との儀之申て取
扱以譯之有之候間其上之儀之取扱方出
來兼候

一 再度追談判之申乃御國之差出此裁合申
上候事取用無之候間今般之此談判此
所可申上之事態之此渡來之付昨日申上
候儀之申て之懇親之取扱と存以儀之
有之候

一條約面之是追仕來之通りと掲載首之儀之境

を不取極事是迄の通りと申意に有之は右に如何と被相心得候哉

一 是迄仕来通り境と不取極と申意味有之候上は是迄の通り立来の姿に之を以て之に依て候

一 今日も最早刻限遅く相成は之付此談判は是迄の仕度候

一 猶談判後日之譲り可申候

右早而退席

戊八月九日魯國旅寓於て竹内下野守松平石見守等
亞細亞國外必事務セ子ラール、イグナチフハ

應接書五

一 應挨拶早而

一 是迄此談判者之候件々々外尚此談に廉も此座に趣然而之宿早私より各別候申上候候も之に同右此談に廉に相伺可申

一 昨日之是迄及談判に趣に付書面は差出右に候くも致し取扱に而一同示存に右書面に

三
俄之付尚少及引合度俄有之同一應可申
談候

一 兩港五都之派と五ヶ年之延期と治定致し貨
幣改鑄之派も此上箱館に留りコンシエルの
委任は致し之付同人派以後可引受との後右
も書面之趣に而致安心候

一 カラフト境界之派と貴國於而委任し者被申
付彼地は可差遣との旨も有之し將共右書
面中五拾度之而之談を兼允せしと有之候而
之最初より此方於て五拾度之而境界差之度

と品々申談候詮も毎之且右之而之以後五十
度之談を難出来候に相少候間右と言葉の上
之而兼允不致し乃文言之取直しに相致度右
之通り不取直し而之於此方舊記等之基き五
拾度之致治定候段是迄度之及引合候甲變も
毎之委任し者差遣實地之形勢之寄致談判候
而も五拾度之而取極し派之出来中間敷哉小
も相當不都合之候之者之候同右も以て津之
之取直しに度左根に由り以將之於拙者共も
歸府之上政府に申立候之も彼是於合宜候

間申談候通致一度

一書面中言葉と上と十字書加へ候儀と難
 出来一俵五拾度と以境界差定ハ儀と改
 府と趣意と無之候間古く申談と以受不
 申積之有之然ル事今般怒之以優柔申談
 判と趣も有之と雖而も私も使命と奉
 外國に居越ハ談判筋と成否と察ハ而も
 甚致迷惑ハ儀も有之者も全く申前候
 方にも此迷惑筋少く相成ハ致一一度
 免書面と通双方委任と者之而談判可致

海舟書屋

積取計併と申以下之文言を以上文兼允
 せととの文意と怪く以多ハ儀と有之
 候間古く取直ハ不申ハとも別段不都
 合ハ儀と有之間敷と存候

一過日中阪と及引合候次第も有之ハ事右ハ事
 と申小黒白を論ハ以迄之而十年相掛候とも
 際限と無之と付双方とも委任と者差出實地
 之而談判取極可申旨江申事候と付左候時
 素より實地と形勢と有之ハ儀と付五拾度
 句論假令六拾度之而も其次第と察取極候と

も差支無之答に可有之旨申談候處右に素
至委任に者心得次第に候段被申すに趣も有
之候間即今五拾度に而不兼允との候ハ全
言葉に上と而實地に摸れに寄に而も如何と
も以て難差定譯に可有之右に付言葉に上
と申字不差加候而も前書致談判に趣意と不
致符合に松被存に一律右書面政府に差出候
節に素より談判に次第とも夫に申之候儀小
付其節右兩松符合不致に而も於拙者若も落
こも相成致迷惑に儀に有之夫故前文に通言

葉に上と申字差加に候に則談判に趣も顯然
と致し候に付其通り而直に松致度候

一此書中にも過日中より内談判いたし候
次第等其候認め儀に而右に則内談通り
兼允に致にとの儀を認識に追に儀に付
言葉に上と申字書加に候に明了に成に
松相見候時去却而疑を生しに松可相成
候

一右に而疑を生し候との儀に於拙者共一向不
相分一律過日に談に而も是追度に及引合候

得共互に實地に形勢等相心得居り候にも無
之空敷枝葉に談に涉り詰り黑白を論じ以て
二而千年相立候とも際限を無之に付双方
とも委任し者實地に差遣し其所見の事極
候松被中開に付其通り致し候に俄に而も不
兼允に候に則言葉に上り候に付其通り書加
り候に是迄引合に次第とも符合致し明り相
成に候に有之候間夫を為先別疑念を生し候
儀に無之候

一 實地に形勢等相心得居り者等双方より差

出實地に談判に無之に而も迎も取極方
難出来者に者差出候松可致との儀に私
より申上り候に有之候併共一律五拾度
に而も取極候儀を自國政府に趣意に無之
候間最初より右に而も此談判難致者中
上候儀に有之然に其境界不可極に而も
此不都合に阪品々被仰開に次第も有之
支故前書に趣意に仕候譯に此症に右に
付五拾度に而も不兼允に趣にも認め候
に付右に別段言葉に上り中差加候而

之却而後未疑を生く候原と可相成はる
右書加候儀は難出来は將共五拾段の字
有之由不都合と乃思召はり、右ハ相除キ
境界と定むるに兼允せと直一候に
以ぬ一は而も不苦候

一 是迄及談判は次第も有之に要書面へ趣と致
相違候而も政府へ差出は節拙者にも不致届
こも相成可中へ付言葉へ上と申儀差加候時
之則右談判とも致符合は二付右へ以付是了
も差加は致度は

一 是迄及談判有之に次第等盡く書起し
以候こと無之右に内案要し廉而已摘奉以
ぬ一候儀二而五拾段を以境界取極候と
く儀を最初より兼允難致音中互は儀二
有之然に要強而由談へ趣も有之候二付
右に對し書面取調は譯二候間五拾段に
儀を固より不兼允二有之併下文二境界
取極くぬ先談判はき等し文意有之候
間右二而別段は不都合に候は有之旨敷
尤是迄引合有之に委細に儀ハ對話し

趣之而被仰立候ハ、右ノテ相分リ可申候
 一 追々及引合ハ通リ於此方ニ舊記等ニ基キ取
 調ハ番五拾度ノ地別ホ口コタニ邊ニ而我國
 境界相立候ニ取テ致治定ハ俄ニ付實地ニ而
 致見分以上冬假令貴國政府ノ趣意ニ有之候
 とも其模範ニ寄五拾度又冬六拾度ニ而取極
 以之ニ可然昔過日申談ハ委古ニ委任ノモ
 乃心濟方次第ニ有之段江申付ハ趣ニ有之左
 候濟ノ言葉ノ上ノ取極ハ俄ニ不兼允ニ付
 實地ハ双方委任ノ者差出取極ハ松被申付候

海舟書屋

間其通リ致治定ハ將ニ則言葉ノ上ニ申字差
 加不申候而も不都合ノ儀ニ存候

一 最初ノリ五拾度ニ而境界差定ハ之ノ儀
 一 一切諸請引不致然ルモ其後段ニ此談
 一 趣ニ有之候ニ付格別厚意ニ取扱ホテ
 一 双方ノ里委任ノ者差出實地ノ取扱ハ
 一 振可致音中上ハ俄ニ有之ハ間右五拾度
 一 之而取極ハ儀兼允不致ハ段ニ是追以談
 一 判ノ趣ニ更ニ相違無之候
 一 前被申付ハ通政府ノ趣意ニ而即今兼允無之

候上之實地之而双方委任之者到合及ハ我國
より申談候趣當然之有之ハとも五拾度少く
取極ハ儀之難出来譯之ハ哉

一 今般五拾度之而取極度旨語談之趣之自
國於而一切語請引不致先般ムラビヨフ
より申立ハ趣之御申政府於而語採用云
之就而之双方之趣意兩極區々之語談判
之相分立ハ同古相纏リハ多先委任之者
差出實地之而取極ハ積取扱ハ儀之付右
極相成ハ上之固より双方委任之者實地

海舟書屋

之摸極之付致談判其次第之寄取極ハ儀
之有之候

一 左ハ以テ固より實地之摸極ハ之ハ其意ハ經
驗次第五拾度或ハホ口コタシハ之極ハとも下極ハ
有之ハ去即今五拾度ニハ兼允之ハとて委任之者
而右ノ極ハニ白之ハ一切談判終出來之ハ其方ハ極ハニ
之其詮之ハ右ニ委任之者心以次第ハ中ハ極ハニ
有之ハニ付右極ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
一 只今之商ニ而之双方之趣意區々不相成
如何極談判之盡ハ之とも無詮ハ儀之付

右に實地之而可取極取極候候候之有之
且右致委任の者十分の權有之の者不
得度候

一 右五拾度之而兼允難致候之政府之趣意之有
之候とも實地之談判之由り、委任の者心得次第
第一有之趣も候間實地候得之五拾度或は六
拾度又ハホ口コタニ之而取極候ても可然と
候候然而も前書其許り被申少も取も固
左取之趣意之可有之候之付其段候と致兼
知度候

一 右取極方之儀今即今之何共取極出
来支故委任の者差遣可申譯之而固
委任の者心得次第之有之候

一 實地之而取極候積取極有之由り全く厚意
譯之而亦存の得共五拾度又ハホ口コタニ
而取極不申之由り不相成候者兼而政府より
被命の候も有之由り今般之引合之而以來右
等之談之出来不申之極之書面為取極之由り
右政府之趣意とも致相違の候之付拙者共之
於而も政府に對し不相濟候間段之引合至度

申談の儀之有之候

一 右書面中自國政府於而五拾度之而之候
 談之兼允せよとの文段而已して皆不都
 合之候ハ、右に互文之以ぬし日本使節之
 もムラビヨフ申立の通り趣之而も兼允
 せよとの文段書加可申候

一 右書面之内五拾度之文字相除キ以儀之致勤
 辨其他廉く於而少々之異同有之候ハ、尚及相
 談の相致度の同今日を外事事件之付申談度以
 一 五拾度之文言相除可申との儀之全く也

自前候方は都合と計其不兼允之場所聴
 と不取極は概以し以儀之有之候同右
 と為と相勘考可被成以

一 拙者共都合と計其可相除との儀之厚意之候
 志以濟去前申談の通り即今之引合之勢以來
 五拾度之談し出来不申は概之而も政府之趣
 意之相觸以儀之付其違之至甚迷惑之存以儀之
 有之候間尚勘弁いたし不都合之概為と相
 談以ぬし度候

一 右書面之而も以來五拾度之而も談し可

相成縁之絶は思召候ハ、五拾度之

字を除キ候方可然と存候

一以は是之も勘弁之上挨拶可被致候

一五拾度之字可相除との儀は勿論外席之尚少

く之加刑を以て一に度は談之儀も可有之を

右書面之調印ともいたし候儀は付不引届く

儀等無之に前以萬と打合は申延も無之儀

と存候間右少く之加刑不付其許は度之面會

申入はも氣之毒之儀は付右之其通亦官之

引合はらひ其上治定いたし候も有之

海舟書屋

候ハ、尚面會之上談判と盡しは松可致哉と存ハ

右之而可然哉

一右書面之尚此勘弁も可成以得共明後

日冬之ニストル、コロチヤコフは此調印

相成候松以多し度同人儀ハ不日當所出

立他はいたし候儀も有之候之付今日不

も書面索文等百極量は松いたし度儀之

有之候

一右之熟覽之上尚評議と冬之儀は明後日

まで治定は候ハ、同日是後之否可申入候

間其翌日調印相成に松致し度候

一 明後日迄は調印不相成に其翌日迄

之ニストル等一同國中會議者之猶

其翌日迄帝官に出仕有之候間明後日

之後に右日限等只今難取極に右前少

談に通下御合に為多吉即ち通辨官

ヲステニサツケニ差出に候是今迄

之西も今晚之西も差支無之候

一 左候得る右被申少候通十一日小調印相成候

松精く取急き評議可致に得共右間之合不申

海舟書屋

以ハ、猶此方より日限中入候松可致候

一 以は是之も此都合次第之西可然に

一 外事件申談度候

一 横濱長崎箱館等開港場之外に軍艦繫泊し、

候而之即今人心不居合に折柄如何松に仍

違相生に貴國人民等に對し不慮に儀出来候

も難計と政府於而之深く心配いたし候儀に付

右に困難等不消止し節に無授儀に候得共其

他寄七船以しに候之無之松に之に度に

一 右に讀み趣に能相分りしに去去昨年中

英國水師提督の之小々所出測量之儀許容相成り趣右水師提督より中越以次第も有之候間右極之儀之自國にも許容有之に極以多一度候

一 右許容相成り之付而之前書水師提督之同人限り之由り唱(自負在立)趣之有之候右之事實之儀之由哉

一 右水師提督之ホープロと申もの之候哉

一 左極之首之候

一 右之英國之エストルより我國事務執政之遮

而申立之餘儀差許候譯之而我國近海小々暗礁等多分有之候之付横濱長崎等之開港場に來往以多一候船之於之ハ往々難儀から候儀も有之に間前以測量以多一不置以而之不相成旨申立人心不居合之折柄愈念之儀も不少に間先ツ見合に極以多一度旨申論置候其後度之前書之趣申立候間然ル上之我國之向測量以多一可差示旨とも中少以符共何分兼允不致右測量以多一候上之針路之難易等繪圖面に書加一候之付則萬由人民之為小も相

成以俄之有之候趣等尚申立右之而も同相
歩候處以測量不致以而も人命之も相拘り
候俄之有此候之以は是れも許容有之候相以
多し度強而申張右人命之相拘り候と乃俄小
有之に而も是亦不容易俄之付横濱長崎箱館
三港に針路而已可差許然而も其節も右軍
艦に此方役人為乘組我國艦と相建自國之も
乃測量致はと同相に伴之仕成我事務執政より
差許は由之有之尤右談判に席はと相者共と
不罷出候之付聴とに俄と不相心得候時共粗

海舟書屋

前書に次第之有之候由兼知り居

一 右測量いたしはとも伊勢志摩尾張之ヶ國に
迫海はと一切不立寄相申談其通り右之ヶ國
相除測量しはは俄之有之候

一 右之ヶ國は歩相成はと何故之候哉

一 右之別而人心居合方とも差答は場所之付其
段申談右之而兼知り候

一 不閑港場は船と寄せは俄毎之候との候
と外國之政府はも此談有之候哉

一 各國共一同に談は俄之有之候

一 英國索國之而不兼知之由兼之込以俄
も有之候否之左様之有之候哉

一 英國少之兵軍艦を決而繫泊不致以との俄之
難相成候將共困難等も無之小妾之害せ以俄
之致之旨敷者中少索國之も是亦同様小首之
候

一 先頃豊前國小倉之中處に英兵軍艦乗組者
二 而妾之上陸以多し其上同所は埋葬取當
之候俄有之に受同所人心之も指別差等彼是
混雜之俄出来政府於之深く心配以たし此事

海舟書屋

も有之候之付右様之儀之貴國人民杯於てハ
決而無之振前以申談至度候

一 以兼知之通自國政府於て各所國以不都
合相成以俄之可成丈々相除以振以多し
度心將之有之に困難等之掛念首之に二
舟一切不害と中儀之難出来以將共困難
船之外繫泊以たし以儀之無之振可致以

一 我國日用之品之凶作等之而國內差支候節之
其時之期限差定輸出方差留以振以多し度充
至即之在留之コンシユルに其段中違候振可

致之付然ル上之右取計ハとも可然候と存
候間前以心得置ラレハ取以たし度候

一日用之品々等差支ハ節一時輸出方以差
留相成ハ之勿論之候之旨之旨去軍艦碇
泊居立船中日用之品之丈々之由渡者之
以取以多し度候

一渡来之軍艦日用之品之相渡ハ之無論之候
而右申談候之高賣品小て輸出いたし候を差
留度旨申談ハ候之旨之候

一左取之心得之異存無之候

一自用品税銀之候右國之振合之而令軍艦乘組
之もの之而も取立候而可然趣之旨之候間ハ
是為て之不取立候得共以来之為差出ハ積小
有之候間是亦左取被心得以取いたし度候
一右取銀立留之ハストルリ之不取立候得共
コニシエルクモ之條約面之掲載者之候自用
品之外部而取立ハ而可然趣之旨之候間矢張
其通取計ハとも前同取差支之旨之旨敷ハ

一外國之政府之而兼知以多しハ候ハ固
之自内政府於ても別段異存ハ無之心得

共自國人民の之前書く通り此右計有
之候而も外國は對し不都合之存り間右
之面も兼允以て一かたへ候

一 固より各國人民にも一極に取計は儀之有之候

一 若し自国の之に以て談し之面私儀兼知

以たりはさて自國のもの計り外國より

之の之相違いありは取扱有之候而も

誠ニ迷惑之儀之存り

一 右極に儀に決而無之固より各國同極に取扱候

儀之有之候

一 自國より差渡至候コンシエルの商賣

筋小拘り不申全ク兩國に事務取扱は付

チプロマナキーアゲント同極に而外國

々コンシエルの之相違致し候間同人自

用品に税限取扱之候而可然右をも

取扱之相成は儀にハ、チプロマナキー

アゲントふ以て江戶表に立留為致は

取可致右に次第之有之候間外國に之に

ストルに毎税に儀に差許在候ハ、自國

コンシエルのも右に差許可成候

一自國より上海杯に差遣置以コニシユ
ル之高賣致し候儀に付右此國コニシユ
ルこと相違以多し候

一右スコニシユル小候將之魯國計右取計候
と申譯こと難至各國同杯相成不申而之不都
合と存候

一ニニストル并コニシユル等召遣以者に而盜
賊其外引合筋有之吟味し為メ呼出シ以節右
召抱候上之勝手之呼出し候譯之無之答杯と
申拒之不差出以者も有之以譯共假令召抱候

とも固より我國人々儀に付其次第に寄呼出
候之當然儀之有之候間以來にも右差拒之
以儀々無之振致し度尤貴國コニシユル小令
是近者等之要置之無之候將共是亦外國々々
引合及ひ以儀に付一應申談並候訳之有之候
間序を以箱館立留しコニシユルにも通達並
是以振以たり度候

一此談し趣之箱館コニシユルに序を以可
し遣候

一條約濟國々々て戦争等者之に節之右兩國共

小我國あるて冬武器類一切不賣渡積之有之
右之各國共左之振合之可有之と存如何之
候哉

一右之振之歐羅巴洲中何をも規則在立
居之候之而則各國人民交際之法則と申
書籍之委く掲載者之候

一左之可有之候將共我國之而之前申聞候
通戦争等有之に即之右之小共小武器類不賣
渡積之候間右之而當然之候之可有之誓へ之
貴國より條約取結は國々小て致戦争居右一

々國より玉葉等請求ノ其節相渡は、則一方
に加勢致し、以譯之相當り候間左之振之有
之間敷之存候

一戦争致し居之兩國共懇親之國之候之
此談く通りく趣意之有之候將共一々國
之懇親取結居一々國之懇親無之候之
右取結は國々之請求ノ候品々相渡は方
當然之有之候

一各國共右之振合之有之候哉
一右之振之振合之有之左右品々之請

求メ以節相渡候儀ニ而援岳等ハ容易ニ
差出不申候

一 右指シ儀々所國内都合ニ相來以儀ニ付
前中上候書籍ヲステニサツケンリ多
吉即迄可為差出候

一條約面ニ掉銅ニ余分ある公事入札を以
可相拂との趣掲載有之は是迄ニ器物ニ製
候品々輸出致シ来以リ右品物々名目ト
致シ不正ノ品等相製シ要ニ貿易輸出致シ以
小付自然國內ニも拂底及ビ余分有之候振ニ

海舟書屋

譯ニ難至右入札拂シ趣意ニも施行不相成候
儀亦有之は間以来年少リ余分有之候節ニ
入札拂ニ致シ以積リニ有之は右指相成以上
器物ニ而輸出致シ以儀一切差留可申左も
無之候而も條約面ニも相背キ貿易筋取締向
等更ニ不相立不都合ニ儀ニ有之候間以未冬
左指被相心得以振致シ度尤ニニストルコ
シエル等自用ニ為シ求候儀々其時ニ政府ハ
中立次第無差支相渡可レ儀ニ而前書ニ趣
全く交易品少テ輸出以シ以隨相禁度ト

儀之有之候在去貴國より冬未々高人も渡来
不致右不都合之儀も無之候將共是亦外國々
に引合是儀之付一應申談並候

一 貿易筋之儀之付進之由不都合之廉之等
此仕法替相成以之當然之儀之有之由同
前此談之趣お為て是聊意存無之由一共
軍艦等繫泊致し船中要用之為之延銅等
此渡方申立候由、無差支此度並有之由松
以多一度由

一 右之由論之儀之由船中要用之為之杯於て差

海舟書屋

支以松之儀之無之由之候

一 過日クシユニナレ貴國より陣營取建候儀
之付條約取結以前後之次第等被申由趣も
有之右年限等石調以之條約取結候之千八百
五十五年十二月之有之陣營取建以之同五十
七年之而過日被申由趣も是相違以多一候
之付申談並由
一 左松之由無之由存候
一 右之由取調以之前書之通り相違無之由同
其段申談置以儀之有之候

一 左候將は右に面直し將共クシニコタ
シに取建は陣營に候し條約百結は以前
二者之候

一 クシニコタに取建候陣營に候ハ此方より
申談は趣も有之最早取神相成候候候亦有之候
右平而退席

戌八月十五日魯國旅宿於て竹内下野寺松平石見守等
亞細亞外國事務ゼ子ラール、イクナチフに

對話書 六

海舟書屋

一 應接抄平而

一 過日よりは談判向く相盡し心得に
候に候に書面は調印しに續くも相成
不申如何いたし候譯に裁私よりハ右
書面は文便品に取直しに相談中上候
もは座に書取直しに前候方こそ唯一語を以
て至限有之候こそ甚固り候書面中
カレニ嶋の界と文段をサカレニ島小
あふ堺と取直し被成度旨ハ何事
而も同振し意味に候候如何思召に裁

一 廿カレン島不在分と以多し以方文阪兵紛
相決候間名之而差支無之候ハ、其通といし
夜候

一 島小島分と中島のと中意味ハ如何違ハ
候哉

一 嶋の堺といたし以済ミ廿カレン島乃堺と申
事此極ニ相開島小島分と以多し以済ミ兩國
所轄地所ミ堺と中事判然いし候間石並
度事ニ候

一 名ミ成ニ付而ミ此手前扱方ミ此重任を

海舟書屋

少しも雖く致し度心を盡し居以交一語
位ミ事ニ而彼是此談ミ有之候ミ如何ミ
譯こい哉

一 一作此書面ミ事ト委細小不取極廣く以
たし是以後談判全權ミものト命ミ候上
萬事石極夜至意ニ有之然ル交此沙汰ミ
通ニ而ミ大半事も石極リ別候全權ミも
のト命ミいこも不及事ト候候

一 島乃堺と中ミ別島小島分界ミ中意味小
て追而全權ミもの相命ミ以上取極以積

至く要は沙汰し通し而して別段派し以主
意も有之れに被存候

一 別段主意有之候こと無之島ありあはし以多し
以得て文段後輝といたり候間其通り取直し
度事とい

一 廿カレニ島ニ付而日本政府ニ需ニ應
全權ニ者ト命し御國治委任しものと談
判以多し以ニ懸離レ候佛國等ノ界ト論
し以極し候も有之間敷存以実ニ辞等
出直し無之以とも勿違し有之譯ニ無

海舟書屋

之候

一 素より行違等者之譯ニ無之以得共右ノ通取
直し候得て文段後輝とい多し極者其安心致
し候故し候ニ候

一 事し不取極以前し書面ニ以間意味さ
徹底以たり候得て取極り以文段ニ相成
候こと不及事と存い

一 最初廿カレニ以界ニ定むる事と中候を
掲げ後段ニ至り右ニ付互ニ委任全權
者を命し談判可及し有之以得て何レも

差支と無之候と存候

一 被申少趣こと候譯共此方之而も此差誠以候
 文段之而も翻譯之上之而島小前ふと反直
 一以方穩之有之候被存以同右之通取也
 候事之而も此趣小も同根之意味之有之候も
 乃之其許之も彼是詰論に致候と此方於て之
 難相分候

一 前小題と掲げ置文中小同根之候と深及
 一 認入以而も却而事之寫違と相成以も
 乃之候同何也二段に認入候之も不及事

二 此症候

一 全文版きての事之而別之主意有之譯之も無之
 候間右之通取直一何も差支と無之否と存以

一 書面毎條最初二題と掲ヶ置猶文中巨細
 小様及一認之有之候間文意之不分明之
 處之無之候と存候

一 素より其意味小相違と有之間敷以譯共是未て
 引合筋之摸振并此書面之も我政府に具さる
 一 互候儀之付双方符合不致候而も不都合之
 有之則其許之も右等と打合之為之相談も被

致は事ふて此方一同落意不致もの調印以
多し候候と難出来且意味と相違と無之候と
も和文小籠譯以し候上之而取直し以方文
意猶更徹底いたし候同別段其許とも差支無
之候し、取直し申度如何之被思は哉

一 全辭書面主といふ候は日本語にも無
之魯語にも無之則蘭語之有之は同和文
身如何振出認有之はとも和文と此儘以
据至可然候

一 意味と相違し有之間交は得とも古蘭文及譯

致し候上文意發輝と不致振被存候同右之通
取直し度候之而其許とも左程一語と事と
拒は如何し譯之候哉

一 凡言葉と其國毎小言葉振と申もの有之
他國と語と自心と語小直譯難致要ハ自
國と數語を以他國と一語と解訳以多し
以譯故意味と相違有之は得とも何れも差支
有之間敷存は

一 此方於而ハ各國と言葉振と素より心得不申
只和文上之而文隨發輝と不致振存は同取直

一 度派之而其評小も是きて懇親之取扱も有
之候事故書面も右之而差支無之ハハ、其通り
こ以多し度左候得之拙者も徹安心以こし調
印したし候且島小あふ界と取直し候而過日
中より談判之主意と相違ハ有之間敷存ハ

一 一跡は談判筋と英國之而為取替相成
以書う望も事十分ニ相成居ハ同一語位
之事之意味ニ相違無之ハ得之業文書儘
おて此据互被成ハ方可然と存ハ

一 以治是之も双方ニ而留意以たり候書面之候

海舟書屋

之而之素より互ニ調印之難致筋ニ而聊ふて
も此方存寄者之ハ談ハ後之強而其候し据互
是度被ハ少ハ譯之有之間交將官前其評小ハ
書面重言ニ相成ハ被申少左候ハ、題言ハ廿
カレニ島境界之事と而已ハハハ、可然存
候

一 鴻之界之而も島小有ふ界ニ而も意味之
違ハハ更ニ之之實之何也以右取此論有
之ハ哉

一 其評之も右取諸論は致ハハ如何之譯ニハ哉

一他國之語を自國之語に譯し不分明之候
譯之自不之數語を以譯し如何に
も分明相成可申假令日本語之而不分明
之候之も蘭語之而意味之相違無之候
之以譯之之而も可成存之也之被是此論
有之候之別段此互意有之事と存也

一決而別之主意有之譯之之無之畢竟文段上而已
之事之候

一書面未段面談を極しと有之之面談取極
極しと此加筆有之右之面談し候之

則取極之事之而取極之二字無之とも素
より當然之候と存也

一被申以通面談と有之上是取極之之當然之候
二付業文之候之据互可申候

一此不取極界と申語之何分取伏難仕尤兩
國之界之申候之由、差支無之且文段發
輝と不致極此思召候、外之語と相増し
可申左も無之而之以譯之之も別段此主
意有之極被存也

一前之も申通決而別之主意有之譯之之無之又

其許とも左きて無論いかに如何く譯こら哉

一私方に主意を界と取極に趣く由談判之
兼引不致併切之由望有之に同双方全權
いもの之任し面談を極しと迫る意味
之而素より事の取極に非ざる之に同何
も差支無之答に候

一又此方之面心得居寂初追々及引合候處其
許こそ双方互に黑白而已論しにて是際限も
無之間格別懇親に譯し其土地業内いもの
委任相命し面談可致間我政府之面も業内
い

海舟書屋

もの差遣し談判いかに依被り少則其儀を
書認し返す之而別段意味有之譯こそ無之其
許とも左きて被論候得る北方之面も又く談
しに半面と不相成に

一今般此歸國し上野國政府に證に相成に
程に書面出被成候極に由續に致
し度存に得共自國に語和蘭に語於て不
都合に儀に何分兼引難仕支しと彼是情
論者之候に何致情主意有之事とに存に
同左に而るに談判に廣く以て是れとも兼

引難致旨而已認差出（い）り外無之（い）
 一更不主意者之詐之冬無之最初其許と初而面
 暗及候節互之偽り無之と誠之尊之事と被申
 聞之事も有之此方之而も更不偽り等者之取
 直し候儀之冬無之其許不も是近懇親を被盡
 候事故取直し（い）方之而兼引は致度且文段重
 言之相成（い）松江中少（い）問題言（い）サカレ（い）島
 境界之事と而已（い）た（い）本文之取直し候通り
 之（い）多し（い）至度候

一実之終一言（い）延之（い）事之而彼是此論者之候

海舟書屋

松之而も是程之書面と取調（い）こも不及
 延期之（い）事兼知（い）た（い）候貨幣之（い）事致兼知
 （い）境界之（い）事兼知不致候と而已廣之（い）取知
 不兼知之（い）旨認差出（い）（い）方却而可致哉と
 存候終之（い）事之而斯まで此論之（い）無之候と
 存居（い）

一其許好意之取扱（い）素（い）り（い）一同亦存居候得共
 書面歸府之（い）上政府は差出（い）（い）節此等冬如何
 解（い）可申哉杯疑（い）起（い）り（い）松之而も批者共迷
 惑（い）以（い）多し（い）候間文段榮輝（い）と（い）り（い）至度尚勘考

省之度候

一 秘儀之儀子前候方に厚意と受し候心得
こゝに得共終一語之事に而彼是此談者
之候に何致別段に主意者之に事に何分
此心底に程難解に旨兼引難仕候

一 左海て小被疑に其許に主意に何故に哉

一 左振江仰に而も互に主意不相分候間双
方共事と捨にり外無之に

一 尤程まで小江作少に何致別に語り此
取直し省之に而も如何に候哉以は是も小

も此取直しに候に而も何分以主意相分
不申候

一 追て被中少趣も省之間尚勘考可致に得とも
是迄懇親に取扱省之に旨書面も何卒石纏に振
周旋省之度候

一 是迄自國政府於て懇親と顯しに心得に而
遂に其懇親に他國より御國政府に懇
親にもおらひ可申則和蘭政府に此談判
向に儀に付自國政府より同合に次第も
省之以當府に而も此談判に實も歐羅巴

台國にも及び可申存る終一語迄之事

二此議論等々無之若之存候

一殿々厚き取扱亦尚此上書面々受て以て是も

も周旋有之は松以多一度候

一一二語之事二而此兼引無之と申す相成

はつ、却而此不都合と存候

一一二語之事ハ此方之而も尚勘考可致候得共其

許も猶勘弁は致候存候

一古文渡之受たて頑固小此抗論有之候

之何致別段は主意有之事と勤而心附候

海舟書屋

一右松狐疑被致候彼此方之と一向相分り石申

更之別趣意有之候とも無之候

台年而退席

案寛政二年庚戌松前侯其臣高橋某を唐太了

遣し高館之地を相せし先尔来内地乃漢民時

を以て同地不往復し或は交易と云ふ産業を

営む小至まり同四年壬子幕府同宮倫藏最上

徳内等と命し深く其石毛小入る山川乃險易

物産の多寡を檢視せしむ安政四年丁巳四月再

目賀田帶刀服屋省輔市川十郎等小命し其風
土を按驗せし先たり是より先魯國乃提督布
怡廷國書を齎し屢定界の事と談とこひ互共
減終小諧りた同六年己未七月使節ムラビコフ
来り前議と述ふ参政遠藤但馬と酒井右京亮等
之小接し彼此互小執てまゝ決議に至り次文久
二年壬戌七月我ら使節竹内下野と等魯都滞
留の日外國事務セ子ラール、イリクナチアと数
度此事を談論し共彼仍前議を執て動り次
後箱館奉行小出大和と其徒り不毛の地を争

んより寧ろ彼小讓共互の得策たふを陳せ
し外國奉行等議して我ら國威を損し聲聞
を海外小墜と人として之を否決せり固て慶應
二年丙寅十月小出大和と彼國都より派遣し
重て前議と論争せしむとこひ共亦其要領を
得し仍て幕府ハ姑く従来雜居の候小据置た
其之を大和と一行の人より少く前日我ら互
洋刊若干乃地圖皆五十度の色分ありしを以
て一場の論争とふせし此時魯國中新刊の
地圖を觀る小一も其色分ある者を見たりしと

以
不

開國起原卷二十八

海舟書屋

